



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第219号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

編集・発行：情報委員会

気軽に交流を楽しむクラブ

2013～14年度 テーマ ー優れた運営の仕組みを継承し、会員活動をより楽しくしようー

第 219 回例会

日 時:平成 26 年 1 月 9 日 (木) 16:00～18:00

場 所:エルシイ

出席者:64 名、出席率 92.8%

(会員総数 69 名 休会 0 名)

戸田例会委員長による資料確認後例会開始。

1 挨拶 荒会長



新年あけましておめでとうございます。私の今年度のテーマのサブタイトルに「優れた運営

の仕組みを継承し、会員活動をより楽しくしよう」を掲げました。この会場で、皆様のお顔を拝見し「達成できたかも」という笑顔を沢山いただきました。有難うございます。

今期の後半、6月までの期間、ご協力を宜しくお願い致します。

2 ハッピーコイン披露

土井副会長からハッピーコイン(後掲)の披露があった。

3 パースデーカード贈呈

荒会長より1月生まれの会員(左から・敬称略)米林、中野、寺田、武田、下山、下田、河合、大野(聖二)の8会員にパースデーカードが贈呈された。



4 委員会活動報告

(1) 幹事報告 馬場幹事

総会における審議未了案件を出してしまったことは、幹事として率直にお詫び申し上げます。

本件の今後の扱いについては、理事会で議論し以下のようにさせて頂きたいとの結論を得ましたので、ご報告いたします。

(1) 第Ⅱ号案件(主として「宇宙の学校」プロジェクトの委員会化);八王子「宇宙の学校」プロジェクトに関する認識と理解が、必ずしも理事会と合致しない会員が少なからずおられる実態を、遅ればせながら認識いたしました。そのため、事の是非はともかく本件を棚上げさせて頂き、第Ⅱ号議案の再上程は当面延期したいと存じます。従って「宇宙の学校」プロジェクトは現行の会長直轄プロジェクトのままとさせて頂きます。

一方、理事会の立場についてご理解を頂くために、第Ⅱ号議案を上程するに至った背景の説明をさせて頂きます。

(配布資料「宇宙の学校」プロジェクトの経緯と現状および成果」を説明。)

理事会の認識は以上の通りでありました。ただし、現時点では事の是非に関する議論は棚上げさせて頂き、今後は「宇宙の学校」プロジェクト担当とも協力して、同プロジェクトのクラブ内認識と理解の浸透に努力して参る所存であります。

2) 第Ⅲ号議案(会則と運用細則の改定);4月または5月に臨時総会を開き再上程させて頂きます。第Ⅱ号議案関係は削除いたしますが、「宇宙の学校」プロジェクトのトップは、クラブ外部への重要な顔として、またクラブ内部に向かっては会員及び理事会との密接な連携を図るためにも理事とすべきであると考え、理事定員を11名に増員させて頂きたいと存じます。

(2) 会員委員会 戸田委員長

本日は 64 名の出席（5 名の欠席）で 92.8%の出席率となりました。

(3) 情報委員会 田中委員長

「プロバスだより」今月号は有泉副委員長の編集によるものです。最近ボリュームが多すぎないかとの声がありますが、報告は極力簡単にしよう努力しており、皆様の活動内容が多くなってきているとご理解頂きたい。

情報委員メンバーに欠員が出ましたので、皆様に一層の御協力をお願いしたい。近く始まる「学習サロン」で話し手になられる方々には、是非ともお話しされる内容をご自身の手でまとめて、情報委員へ提出されるようお願いいたします。

(4) 会員委員会 荻島委員長

矢崎安弘会員、阿部和也会員が 12 月 31 日をもって退会されました。この結果会員数が 69 名になりました。

2 月の例会で新しい会員を紹介したい。

(5) 研修委員会 河合委員長

2 月の例会の卓話で、市の部長から「中核市」の話をお聞きします。これに関連した市民フォーラム（チラシ配布）が 2 月 2 日に開かれます。興味ある方はご参加を。

(6) 地域奉仕委員会 内山委員長

「学習サロン」で既にお願した皆様には今後のご協力よろしくお願いたします。まだ聴講希望を出されていない方は提出して下さい。当日使う資料などがある方は前もって連絡をお願いします。一般会員 110 名位に案内をお渡ししてありますが、更に必要な方は連絡してください。外部メディアに依頼中の「学習サロン」開催案内は、東京新聞ショッパー社は掲載済み、市広報は 1 月 15 日に出してもらう予定。読売新聞は掲載日確認中です。

(7) 交流担当 立川会員(全日本プロバス協議会会長代行)

2 月 3 日に全日本プロバス協議会関東ブロック交流会が開催されます。各地区から 13 クラブ 140 人程の申し込みが来ており、東京八王子プロバスクラブ（PC）からは、40 人程参加予定です。参加される PC の皆様には、お手伝いを宜しくお願致します。

浅川交流担当理事

2 月 3 日の全日本プロバス協議会関東ブロック交流会に参加希望の方は浅川まで連絡をしてください。当日受付開始は 10 時 30 分からです。PC の方は 10 時までにエルシィへご参集下さい。

1 月 24 日をお願いをしている方々と打ち合わせを「びおら」で行います。

2 月 3 日の参加費（当日支払）は 6,000 円です。申し込み後キャンセルされた場合には参加費を徴収します。

(8) 宇宙の学校 下山運営本部長

八王子北高校の「宇宙の学校」に關与した生徒達が表彰された事は報告済ですが、一昨日北高校の校長先生から感謝の言葉を頂きました。

1 月 28 日に総括会を行いますので関係者の皆様の参加をお願いします。本年も皆様方のご協力よろしくお願いたします。

5 同好会活動報告

(1) お茶の会 宮崎会員

1 月 28 日「初釜の会」を開催しますので、会員以外の方もふるって参加してください。

(2) 歴史 土井 俊雄会員

開催間隔が開いてしまいましたが、3 月 22 日に東京都の歴史散歩を行います。2 月例会で概要をまとめたものを配布しますが、御徒町（現地集合）を考えています。

(3) 麻雀 東山会員

幹事の矢崎会員の退会に伴い、休会していましたが、とりあえず再開をします。1 月 21 日に「びおら」で 13 時から行います。新しい会員を募集します。

(4) 旅行 山崎会員

3 月 18、19 日信州別所温泉に行きます。参加希望者は山崎会員まで連絡をください。

6 特別講話 高田 敬輔 先生

竹内副幹事から以下の紹介があった。高田先生は金沢大学電気工学科卒業後、東芝、東芝エンジニアリングでの勤務を経て退職された後、社会貢献をしたいという事でワイズ福祉情報研究所を設立されました。数年前の笹子トンネル事故もあ

り、社会インフラ・モニタリングシステムの重要性を考え、現在、社会インフラ・モニタリングシステム研究会の事務局長を務めながら研究に力を注いでおられます。



私は長い間、技術屋としてセンサー開発に携わってきました。例えば直径2mを超える管の中を流れる水の量を測定するセンサーを作ったりしてきました。これは磁石の磁力に、水の流れの運動が加わると微弱な電流が発生するという原理



を利用したものです。その後マイコンを経てデジタル化等世の中の技術進歩に伴い、センサーで計測したデータをどう伝えるかという事で通信システムが必要になってきました。又通信システムで送られてきたデータにより、様々な機器を働かせる為に、デジタル制御システム作りや、ソフトウェア作りが必要になるというように、様々な分野の人達との連携が重要になってきています。

現在我が国の社会インフラの現状を見てみると、例えば日本の橋梁数は70万あり、建設後平均29年を経過していますが、20年後には建設後50年を経過する橋梁が70%を超えることとなります。笹子トンネル事故以降、点検作業は98%に達しており、点検後不具合箇所を修繕してゆくわけですが、こうした事後保全だけではコストが

増大するばかりであり、予防保全と組み合わせ、長寿命化、低コスト化を図らなければなりません。この為にモニタリング技術が不可欠となってきます。

アベノミクスの中に日本再興戦略があり、その中で安全・便利で経済的な次世代インフラの構築をするという戦略市場創造プランがあり、世界のモニタリング市場が2030年には20兆円になると書かれています。又国交省のITC(情報通信)成長戦略の中にある道路・橋梁等の効率的な維持管理の実現では、2020年までにインフラの20%はセンサーを活用するようになることと書かれています。又インフラの急速な老朽化時代を迎え、非破壊検査技術や、ロボット技術等の新技術、ITの活用で維持管理、更新システムを高度化し、インフラ管理の安全性、信頼性、効率化の向上を実現する必要があると述べられています。しかし直面する課題は多くあります。即ち何をモニタリング(点検)するのか、センサーの寿命はどうか、導入・運用の経済的効果はどうか等です。そこでこれらの事を研究する為に、異なる分野の30数社の人達が加わって設立されたのが、社会インフラ・モニタリングシステム研究会です。

橋梁の構造はトラス橋、アーチ橋、ラーメン橋、吊り橋、斜張橋など様々なものがあり、その構造に応じて対応策や点検項目が異なるし、劣化原因となる要素も様々です。主な点検項目とモニタリング項目を見てみると、鋼材(腐食、亀裂、ゆるみ、脱落破断等)コンクリート(ひび割れ、鉄筋露出、剥離、漏水等)等に対して定期点検(目視、打音)塩害特定検査(かぶり調査、塩化物イオン検査)非破壊検査(X線、超音波、サーモグラフィ、アコースティック・エミッション)等を行うことが考えられます。モニタリングの役割は劣化損傷の原因となる事象の監視、発見・特定した劣化・損傷の進行状況監視、地震等災害発生時の迅速な変化監視という事になります。モニタリング技術とは構造物の状態を常時もしくは複数回計測し、状態の変化を客観的に把握する技術です。一例を上げればコンクリートのひび割れ幅の計測があります。

経産省下部団体のNEDO(新エネルギー・産

業技術開発機構)では、社会・産業インフラの防災と老朽化問題、農業・畜産の安全・安心、少子高齢化社会での医療費高騰問題の3分野を、解決すべき社会課題に掲げ、大規模な現象把握の為に常時・継続的モニタリングの必要性を上げています。モニタリングの実用化に向けて3つの壁があります。即ち現場ニーズの把握や投資効果の見通し、産業連携やオープンイノベーションと云った開発の壁。何をどうやって試験するのか、予算はどのようにするのか、コンソーシアムの運営をどうするかと云った実証試験の壁。導入効果はどうか、導入時期をどうするか、プラットフォームをどうするかと云ったビジネスの壁の3つがあります。

日本の産業と技術を考えてみると、物づくり(先端技術、生産技術)に優れたものがありますが、マーケティングやスピード、人と物をうまく利用するオープンイノベーションに弱みがあります。アベノミクスへの期待と3つのキーワード(チャレンジ、オープン、イノベーション)で難しい技術課題を解決してもらいたい。商品はイノベーションの原点であり、技術・市場・生産・流通を考えますが、何をどう作るかと言う企画力が最も大切になります。

現在は団塊世代が引退し、技術継承問題を抱え、指導者不在の放浪時代とも言われていますが、技術者育成と社会人としての基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を磨くことが何と言っても最大の課題となります。ご清聴ありがとうございました。

7 閉会の挨拶 土井 俊玄副会長



本日の例会では「宇宙の学校」に対して会員間で理解の深浅があるという事が分かった。

今日の高田先生のお話は、しっかり点検する事の重要性等を含め、示唆に富んだお話であった。先生へ感謝の意を込めて拍手しましょう。

休憩

第二部 新年懇親会(18:10~20:00)



岩島例会副委員長、宮城例会副委員長の軽妙な司会で開会。

荒会長挨拶のあと、吉田前会長の音頭で声高らかに乾杯し和やかにスタート。

新年会の最初は下田会員による大道芸「ガマの油売り」の披露。いつものように素人とは思えない滑



らかな話術と芸で会場を沸かせた。

次に立川会員の司会、畑野かん奈さんのピアノ伴奏でシニアダンディーズの合唱、「汽車ポッポ」、「スキー」、「狩人の合唱」の三曲が披露された。



最後に伊藤会員の指揮で全員が加わり「みかんの花咲く丘」、「瀬戸の花嫁」、「母さんの歌」、「北国の春」、「ふるさと」を声高らかに合唱した。

ハッピーコイン

◆今年特別な年です。1月21日に喜寿を迎えます。プロバスの俳句会で頭を鍛え、プロバスのゴルフ会で足腰を鍛え、傘寿を目指したいと思えます。「初参り喜寿の柏手音高く」 河合 和郎

◆4月に金婚・50年になります。東京オリンピックが開催された年、六畳一間のスタートでした。

河合 和郎

◆年末に市の広報に時の人で紹介されました。光栄です。これからもがんばります。 塩澤 迪夫

◆あけましておめでとうございます。大勢の参拝客に混じり、初詣に行ってきました。どの願いも様々な人に支えられ、成し遂げられることを忘れずに歩むことを、改めて感じる新年でありました。宜しく！！ 宮城 安子

◆新年を迎え、数え年ながら傘寿に達し、女房との50年もの一緒に生活が無事に進んでおりますので、我が家一族11人で祝いの会を致しました。

佐々木 正

◆共々にハッピーな一年となりますように！！今年もよろしくお祈り致します。 杉山 友一

◆ようやく入会2年目になりました。本年もどうぞよろしくお祈り致します。 山口 三郎

◆息子達と富士天神スキー場へ滑りに行き、孫達と一緒に滑れたのはうれしく、念願がかないました。 高取 和郎

◆新年おめでとうございます。今年もよろしくお祈り致します。 戸田 弘文

◆皆さんおめでとうございます。去年は私の干支へびでした。今年の干支は馬です。馬にあやかり、全てをうまくいかせてハッピー、前進せよ。

荻島 靖久

◆全日本プロバス協議会関東ブロック交流会が2月3日に行われるとの事。この時こそ八王子プロバスクラブの輪が大きいことをPR、全員参加してハッピー前進のみ。 荻島 靖久

◆75歳までよく生き延びましたねと孫に言われ、

残り少なくなってきたことを痛感しています。

米林 伸恭

◆「七草粥共食いとなる米寿かな」 大野 聖二

◆昨年1年間で26回映画鑑賞。今年は何回映画を見られるか楽しみです。 野口 浩平

◆皆元気で新年を迎えた。今年子供(徳島)の新宅を是非見に行きたい。 濱野 幸雄

◆今月78歳の誕生日です。池田さんのカードが楽しみです。 下山 邦夫

◆奇跡のピアニスト辻井信行氏のピアノ演奏を、正月早々にBS朝日で聞き大変感動しました。

中野 義光

◆恒例の箱根駅伝、母校青山学院大健闘、5位入賞し、来年のシードを確保。来年こそ優勝を期す。

宮崎 浩平

◆新年あけましておめでとうございます。皆様にとって最高に良いお年になるよう毎朝お祈りいたします。 土井 俊玄

投稿

近現代俳句選

石田 文彦

筆者は昨年からプロバスクラブの句会に参加している。

このことが機縁となり、俳句に関する本を読むことも楽しみの一つとなった。本稿では近現代(明治・大正・昭和)の優れた俳句を紹介する。

俳句は季語を含んだ、音数5・7・5の韻文詩である。17音

の制限があるために、叙述によって表現できない世界、叙述以上の世界を表現しようとする。したがって、その意味を理解することは必ずしも容易でない。俳句を鑑賞するには、まず声を出して読み、韻律を味わい、次に作者の自注、詞書、時代背景、評論家の解説等を基にその意味を考える。

本稿では、俳句の意味を理解するのに必要な解説を試みた。執筆にあたっては、小西甚一著『俳句の世界—発生から現代まで—』(講談社、平成7年)、山本健吉著『現代俳句』(角川書店、昭和

41年)等を参照した。なお、これ等の著書から引用もしたが、煩雑を避けるために、それぞれの箇所から引用であることを記載しなかった。『プロバスだより』は限られた会員間の交流誌であるので、許されると考えた。また、時代背景を理解し易いようにと和暦を採用した。

いくたびも雪の深さを尋ねけり

正岡子規 明治29年

この句には「病中雪」の前書きがある。子規は、前年に日清戦争の従軍記者として帰途の途中で大咯血をし、東京根岸の借家に母、妹と住み、脊椎カリエスの療養生活を強いられた。病床の中から母や妹に「雪はどれだけ積もったか」と何度も尋ねる。子規は「おれはまるで子どもみたいに雪の降り積もることにはしゃいでいるではないか」と童心に帰った自分を自虐する近代人であった。

子規は「俳句は文芸なり」と提唱し、近代俳句の創設者であった。

腸に春滴るや粥の味 夏目漱石 明治43年

漱石は伊豆の修善寺で胃潰瘍の療養中に大吐血をし、生死の境を彷徨った。断食後に初めて粥(かゆ)を啜って詠んだ句である。作句は9月17日であるから秋の句になるべきところだが、腸(はらわた)にしみわたる粥の味は、どうしても春以外に表現の方法はなかった。

漱石は東大予備門(後の一高)の同期生子規の親友であり、生涯俳句に親しんだ。

芋の露連山影を正しうす 飯田蛇笏 大正3年

露は秋の季語である。蛇笏は山梨県境川村の生家に隠棲した俳人である。俳句では芋は里芋を指す。里芋の畑は近景であり、連山(山々)は遠景である。里芋の葉の水滴、露に秋の季節の爽冷を感じ取れる。「爽やかな秋空の下、遠くくっきり甲斐の山々の起伏が、形を崩さず正しく連なっている。」30歳の蛇笏が詠んだ格調の高い句である。

高嶺星蚕飼の村は寝しづまり

水原秋櫻子 大正14年

蚕飼(こがい)は春の季語である。『自選自解水原秋櫻子句集』において、作者自身がこの句について記している。「大垂水峠(八王子から大垂水へ通ずる道筋一帯は養蚕がさかん)の宿屋の庭から、ほそぼそとした杣道(そまみち)を下ってゆ

くと、麓の村に出る。たしか千木良村(現在の相模原市緑区北部)というのだと記憶している。機家(はたや)もあったし、蚕飼いの家もあったこの景を頭の中に置いて詠んだのがこの句である。あの辺には高嶺というほどの山はないし、それに夜の景は知らぬから、空想作ともいえるが、一方にはまた一概に空想と片付けることのできない実感もこもっている。高嶺星(たかねぼし)というのは、高嶺の上にかがやく星ということで、これは私の造語である。」

金剛の露ひとつぶや石の上

川端茅舎 昭和6年

金剛は金剛石(ダイヤモンド)の略である。「石の上にはまるでダイヤモンドのような露が一粒輝いている。」茅舎は表面張力により水が凝集した露に、ダイヤモンドの硬さを感じた。水晶のような透明さを感じさせる句である。

バスを待ち大路の春をうたがはず

石田波郷 昭和8年

波郷は昭和7年、近代俳句発祥の地である四国松山(正岡子規、高浜虚子の生誕地)から上京し、明治大学に入学するとともに水原秋櫻子の門下生となり句作に励む。この句は希望に満ちた20歳の青春句である。厚着の装いの肩をすぼめながら大通りでバスを待っているとき、ふと春の到来を感じたときの驚きを詠っている。

万緑の中や吾子の歯生えそむる

中村草田男 昭和14年

万緑(ばんりょく)は夏の季語であり、辺り一面が草木の緑に覆われた状態を言う。王安石の詠んだ「万緑叢中紅一点」等、万緑の語はもともと漢詩に用いられていたが、この句により夏の季語として定着した。緑の植物の精気溢れる力強さに吾子(あこ)の健やかな成長をなぞらえた作品である。周囲が緑一色なので、赤子の歯の白さが一層際立ってくる。万緑と赤子の生命力への賛美、緑と白の鮮やかな色彩の対比を味わいたい。

海に出て木枯帰るところなし

山口誓子 昭和19年

木枯(こがらし)は冬の季語である。この句は、戦時下の昭和19年11月の作である。連合艦隊は6月にミッドウェイ海戦で壊滅し、10月には特攻

隊が出撃を始め、敗戦が濃厚となってきた。俳句に対しても検閲が厳しい時代背景の中で生まれた句である。誓子はこの句を、戦後に自ら解説して、「この句を作ったとき私は特攻隊の片道飛行のことを念頭に置いてみた。この句はあの無残な戦法の犠牲者を悼む句でもあった。」 帰ることを許されない特攻隊員が戦時の空に飛び立っていく姿を、海に出て帰るところのない木枯らしに重ねている。

おそろべき君等の乳房夏来る

西東三鬼 昭和 21 年

三鬼の自注には、「薄いブラウスに盛り上がった豊かな乳房は、見まいと思っても見ないでられない。彼女等はそれを知っていて誇示する。彼女等は知らなくても万物の創造者が誇示せしめる」と書いている。昭和 21 年、三鬼は 46 歳である。若い女性の輝きはまぶしくも羨ましくもあったであろう。中年の男は、その乳房をちらちらと横目で、盗み見しながら、それがもう手の届かぬ果実であることを悲しんでいる。同時に、敗戦の翌年の作句であることから、新しい時代の息吹をも感じられる。

蝉時雨子は担送車に追いつけず

石橋秀野 昭和 22 年

蝉時雨(せみしぐれ)は夏の季語である。「詞書」に「7 月 21 日入院」とある。秀野は文芸評論家山本健吉の妻で、とびきりの美人で酒豪であったという。結核になり、京都宇陀野療養所に入院の 2 ヶ月後に、38 歳の若さで 5 歳の娘を残して亡くなった。「彼女は病院の廊下を担送車(重症患者を移送する車輪のついたベッド)に乗せられて重症病棟に移送されて行く。五歳の娘が母の名を呼びながら追いつがるが、幼児の足では担送車に追いつけなく、その泣き声は盛大な蝉時雨の中に消えてゆく。」秀野はこの句を最後に医師から作句を禁じられ、絶対安静を命じられた。子を思う母の絶唱である。

鮫鱈の骨まで凍ててぶち切らる

加藤楸邨 昭和 23 年

鮫鱈(あんこう)は冬の季語である。楸邨は肋膜炎で絶対安静の状態だった。「ぶち切らる」という受け身の表現からは、吊るし切りされる鮫鱈の

姿と病床の自分の姿を重ね合わせる心境が浮かんでくるが、敗戦直後の闇市の雰囲気とペースも漂っている。

昨年今年貫く棒の如きもの

高浜虚子 昭和 25 年

昨年今年(こぞことし)は新年の季語で、年が改まると今までの年が昨年となって遠ざかり、来年が今年となって目の前に開ける、時間の迅速なめぐりをいう。「昨年も今年も変わりはない、1本の棒のように、かくべつの波乱もなく過ぎゆく月日が存在するだけだ。」虚子、76歳の作である。昭和 25 年 12 月 20 日、鎌倉の高浜家で NHK ラジオの新春放送のための句会が開かれ、そこに出された句である。俳句界の大御所(昭和 29 年に俳句への功績により文化勲章を受章)の晩年の達観である。虚子は生涯に 20 万句を詠んだ。

湯豆腐やいのちのはてのうすあかり

久保田万太郎 昭和 37 年

湯豆腐は冬の季語である。万太郎は妻にも一人息子にも先立たれ、寂しい晩年を送った。74 歳、死の半年前に詠んだ句である。場所は、江戸っ子万太郎行きつけの下町の居酒屋であろうか。淡泊な味わいの湯豆腐を食しながら、自分の「いのちのはて」がうすうすと明るんでいることを実感している。「うすあかり」には、安堵とそこはかかない淋しさが漂っている。長い曲折の人生を感じさせる「いのちのはて」の「湯豆腐」であり、「うすあかり」である。なお、昭和 35 年に池田内閣が所得倍増計画を発表し、昭和 39 年には東京オリンピックが開催される等、日本は高度経済成長の真只中にあつた。このような状況下での、明治人の終焉の句である。

長き夜の苦しみを解き給ひしや

稲畑汀子 昭和 55 年

長き夜は秋の季語である。汀子は病室に寝泊りして夫を看病しながら、俳句結社「ホトトギス」の主宰の仕事をした。「ホトトギス」は祖父高浜虚子が創設した最大の俳句結社であり、主宰の地位を父から引き継いだ矢先に、夫が死に至る病に倒れた。長き夜は看病生活、さらには人生を暗示している。彼女はクリスチャンであり、「この苦しみから解放して下さい」との主への祈りは、賛

美歌の一節のようである。この危機を乗り越えた汀子は、82歳の現在も朝日俳壇の選者等俳人として活躍している。

シニアダンディーズについて 立川 富美代

過月の「つぶやき」におきまして、シニアダンディーズが「同好会」ではないのかとの問いかけがありましたので、少し説明いたします。

5年前に「はにかみ・おじさんコーラス」と少しジョークの強い男声コーラスとして発足。順調に成長してきました。

ネーミングも分かりやすく、少しおしゃれな「シニアダンディーズ」に変えまして、本格的な男声コーラスとして、最近では地域社会に対しても、熱心な指導者により奉仕のできる力量のグループに育ち活発に活動しております。

コーラスと言うのは、個人同志が競い合うものでなく、音楽性を高めるためにはメンバーの安定・調和・努力等求められます。安定の為にはメンバー数が固定され、ひいてはそれが入会条件を窮屈なものにし、時にお断りする理由ともなっています。それでは同好会ではないとの判断を受け

(昨年度理事会)、以来自主グループとして活動しております。メンバーの安定の為には欠員が出ますと補充を考えますが、地域奉仕活動に向けて、また八王子プロバスクラブの広告塔の一翼を担うミッションとして、少し厳しい制約も出て参ります。この点をご理解頂ければ幸いです。同好会として判断を頂くのは理事会の見解によると思えます。

俳句同好会便り 河合 和郎

私の一句～1月の句会から

今月から兼題句にこだわらず、句会の高点句、話題句、秀句などを掲載します。皆さんの自由奔放な作品をお楽しみ下さい。

助六や大見得切って凧の舞ひ 渋谷 文雄

最高点の7点句。助六と凧の取り合わせがうまい。作者はまさに助六の気分。佳句。

大吉を当てて破顔の初参り 山形 忠顕

大変気分の良い初参りになった。今年は何かいことありそうな。いい句が沢山生まれそう。

空の青透けて見ゆるや冬木立 石田 文彦

どこまでも深い冬空の青さを詠んできれいにまとめている。「俳句は平明な表現で」の見本。

初釜の日なり真白き足袋おろす 池田ときえ

高点句。初釜にかける作者の心意気、きりりと締まった茶室の雰囲気まで感じさせる。佳句。

波染めて島々染めて初日の出 立川富美代

初日の出の景が見事に描けた。光の動きまで見えてくる。「染めて」の繰り返しがいい。秀句。

神楽舞ふ媼昨夜のおやぢなり 田中 信昭

高点句。昨夜一緒に飲んだ村の親爺が媼を舞うという意外性が面白い。句材の着眼がいい。

初富士や甲斐の山々従へて 飯田富美子

世界遺産になった初富士の雄大な姿をおおらかに詠っている。大景が浮かぶ。

初詣チワワも狎も着飾りて 東山 榮

俳諧性に富んだ風刺満点の一句。今やペットは家族の一員以上の存在に。

元旦や時の流れもゆったりと 吉田 信夫

昨日までの気忙しさが嘘のような静けさ。元日の静寂な雰囲気がよく出ている。

柚子の湯やこの一年の凝り解す 馬場 征彦

「やれやれ今年も何とか無事で……」の解放感が伝わってくる。「凝り解す」がうまい措辞。

遠山に冬日残して雨戸引く 河合 和郎

まだ夕陽の残る里山を見ながら雨戸を引く。そして一日が終わる。そんな毎日の一コマ。

編集後記

第22回冬季オリンピックがロシアのソチで2月7日(現地時間)～2月23日までの17日間で行われます。本誌が配布される時にはオリンピックの真っ最中です。

日本のメダル数はいくつになるか楽しみ。

日本の各選手に対する期待は大きい。日本頑張れ。ソチには行けないがコッチのテレビで応援するぞ。

寺田 昌章